



MOYAI ANNUAL REPORT 2022



認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
2022年度 | 年次報告書



MOYAI ANNUAL REPORT 2022

コロナ禍3年目

「緊急支援」を「平常業務」にスライドする

大西 連

認定NPO法人 自立生活サポートセンター・もやい 理事長

2022年度はコロナ禍3年目の年となりました。2020年4月より、コロナ禍を受けて、さまざまな「緊急支援」を実施してきましたが、その多くを、「緊急時の事業」から、その域をこえて継続して実施して「平常時の事業」にしていく、そんな1年となりました。

毎週土曜日に実施している新宿都庁下での食料品配布と相談会の活動では、食料品を受け取りに来られる方が、物価高の影響もあり、2023年1月には685人に達し、700人をうかがう勢いとなりました(2023年4月には700人を突破)。コロナ禍以前には100人以下の水準でしたので、この数字の伸びは前代未聞のものです。そして、これだけの規模となると、容易に「コロナ禍以前の規模や頻度に縮小します」という風にはなりません。700人近くの方の生活を毎週支えている。すでに私たちの支援は大きな重みをもつようになりました。

アパート型シェルター事業やCOMPASSプロジェクトも同様です。新たな事業やツールを導入し、多くの人を支えることができました。一方で、緊急時の支援だから、ということで、緊急時でなくなったらやめるのか、ということ、なかなかそうはいきません。

社会的にはコロナ禍は落ち着きを見せている、とも言われますが、物価高の影響もあり、私たちの支援現場の状況は決して良くなってはいません。むしろ、悪化の一途をたどっているのではないかとそのように感じることも多いのも事実です。

「緊急支援」として始めたさまざまな支援活動ですが、いま、アフターコロナの始まりともいわれる社会状況のなかで、〈もやい〉の平常時の事業(通常の事業)のなかにそれらを含みこむような、そうした変化を迎えています。

実際に、2022年度には、みなさまからいただいたご寄附を原資に、コロナ禍でスタートさせた緊急支援を継続して平常時の事業として実施していくために「特定資産」としての積み立てをおこないました。

〈もやい〉としての事業の種類や規模はコロナ禍前と比べて大きく拡大していますが、必要な方に支援を届けていくために、行政や他団体等が取り組めないような最前線の支援を実施していくために、引き続き、尽力していきます。

〈もやい〉のミッションは、「貧困」を社会的に解決する、ですが、その道のりは、まだまだ五里霧中です。コロナ禍で政策議論が進んだ側面はありますが、実際の施策にはあまり反映されているとは言えません。

01 対面での講座開催



今年はやい貧困問題基礎講座を3年ぶりに対面で開催し、20名を超える方にご参加いただきました。ゲストに首都圏青年ユニオンの原田仁希さん、NPO法人女性ネットSaya-Sayaの松本和子さんをお迎えし、労働問題とジェンダーに基づく暴力についてお話いただきました。社会問題の第一線で得られた知見を多くの方に伝え、社会問題の解決に向けたアクターを増やしていくため、引き続き講座を開催する予定です。

02 都庁下の活動



2020年4月より、毎週土曜日に新宿都庁下での食料品配布と相談会を開催しており、2022年度も継続して実施しています。

配食数が最も多かったのは2023年1月28日の685人で、1年間で全52回、合計29,346人の方に食料品をお渡ししました。昨年度に比べ、年間の配食数は約1万人ほど多くなっています。生活の不安を抱えて食料品配布に訪れる人が増え続けており、相談の内容も多様化してきています。

03 COMPASSカード



この度、生活を支える支援制度を見つける・使うためのオンラインサービスCOMPASSのトップページをリニューアルするとともに名刺サイズのカードを作成しました。より多くの方にサービスを提供できるように、官民の支援機関へのCOMPASSカードの配布・設置を進めています。



KODOKU / KORITSU
孤独・孤立対策推進法

ことく こりつ 内閣官房
孤独・孤立 相談ダイヤル（通話料無料）
～悩みをひとりで抱えている方へ～

12月28日(水) 午前9時
1月4日(水) 午前9時

誰にも頼れず、ひとりで
悩み事をかかえていますか
つらいときは電話で
「#9999」にかけて
相談してみてください

#9999
かからない時は
0120-494949へ
おかけください

孤独・孤立
相談ダイヤルセンター

今年度も理事長の大西連は内閣官房孤独・孤立対策担当室政策参与として、政府の孤独・孤立対策の政策立案に携わりました。特に、地方での孤独・孤立対策に関する官民連携の枠組み形成を目的とした、地方版官民連携プラットフォームのモデル事業に取り組み、実際に、20以上の自治体への訪問、視察、意見交換等に参画しました。また、「#9999」の番号で実施された「孤独・孤立相談ダイヤル」の立ち上げにも尽力しました。

生活相談・支援事業

生活相談・支援事業では事務所と都庁下で相談活動を行っており、引き続き多くの方から相談が寄せられています。2022年度では、円安や物価高騰などの影響もあったのか、従来よりは安定した収入や住まいをもっている方からの相談も目立つようになりました。じわじわと生活苦が広まっていることを現場で実感しています。



生活保護申請の同行件数

約 100 件

相談件数

約 3,800 件

都庁下での配食延べ数

30,000 食以上

相談者に占める30代以下の割合:約3割
相談者に占める女性の割合:約3割

入居支援事業

連帯保証人

390

世帯

(うち新規7世帯)

緊急連絡先

1100

世帯

(うち新規120世帯)

//////////////////// シェルター事業 //////////////////////

新規利用

6名

シェルター稼働率

81.3%



毎週金曜に連帯保証人・緊急連絡先の新規／更新契約手続きを行っています。また必要に応じて、住まいに関する相談対応や、失踪・死亡・施設入所された方の部屋の引き払いなどを行いました。以前行っていた不動産仲介事業は現在休止中です。4部屋で運営中のシェルターの新規利用者は6名、稼働率は81.3%でした。

交流事業

新型コロナウイルスの影響がまだまだありますが、完全予約制のサロンも4回行い、少しずつ以前の賑わいが戻ってきました。コーヒー焙煎事業も外部のイベントに参加したり、定期購入のお申込みをいただく事も増え、焙煎メンバーも増えてきています。藤沢市との「もやい畑」も2年間の協働事業を無事全うすることができました。また、新たな畑での活動も始まりました。イベントも7月には棚経を行い、春のお墓参りも行いました。



居場所づくり

実施回数 **4**回 / 参加者 **77**名

はたらく場づくり

コーヒー焙煎

実施回数 **46**回 / 参加者 **334**名
(延べ)

農作業

実施回数 **58**回 / 参加者 **484**名
(延べ)

サロン・敬老会実施イベント

春のお墓参り

広報・啓発事業

取材対応

100件以上

〈もやい〉セミナー参加者

400名以上

政策提言実績

2022年7月
厚生労働省に要望書を提出



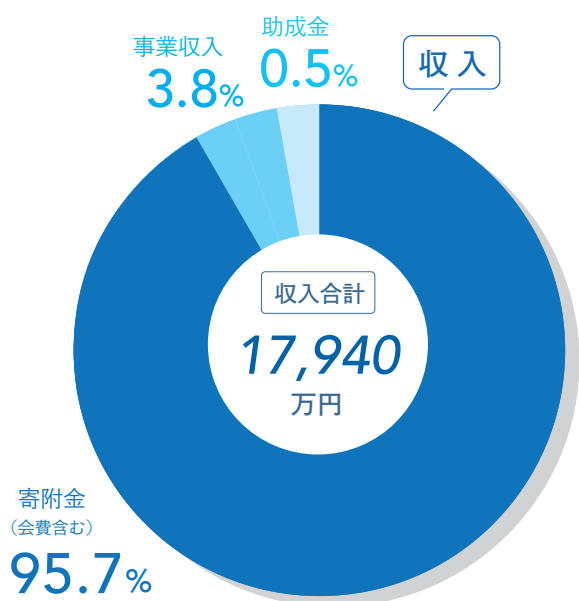
貧困問題への関心は相変わらず高い状況が続いており、もやいセミナー参加後にボランティア登録につながった方は約150名に上りました。大学生や中高生などからの取材の依頼も多く、論文やグループ研究のテーマに貧困問題を選ぶ若者が増えていることをうかがわせます。貧困以外の分野で活動する支援団体からの取材依頼もあり、さまざまな社会課題と貧困がリンクしていることを感じさせます。

2022年度 会計報告

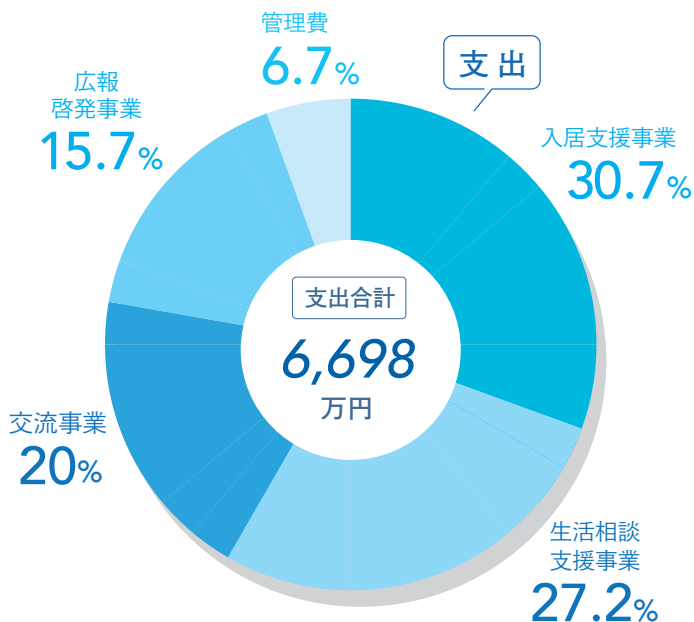
2022年度も、多くの方からのご寄附に活動を支えていただきました。収入については、寄附収入が前年度よりもさらに増えています。収入については、寄附収入が前年度よりもさらに増えています。これは、遺贈として大きな金額のご寄附をいただいたのが一つの要因だと思われます。他方、助成金は2020年度をピークに2年連続の減少ですが、コロナ前と比較するとそ

れでも高い水準です。

支出は前年度より増加していますが、食料配布の規模拡大に伴い、食料を保管するための倉庫を借りたことによる家賃支出や、支援体制の強化のための人員増による人件費などが増加の理由です。



収入合計		(円)	
収入合計	179,398,830	事業収益	6,754,134
寄附(会費含む)	171,700,667	その他	23,611
助成金	920,418		



支出合計		(円)	
支出合計	66,982,884	交流事業	13,427,638
入居支援事業	20,562,398	広報・啓発事業	10,242,388
生活相談・支援事業	18,251,707	管理部門	4,498,753

※按分経費の端数処理の関係で、内訳の計と支出合計は一致しません

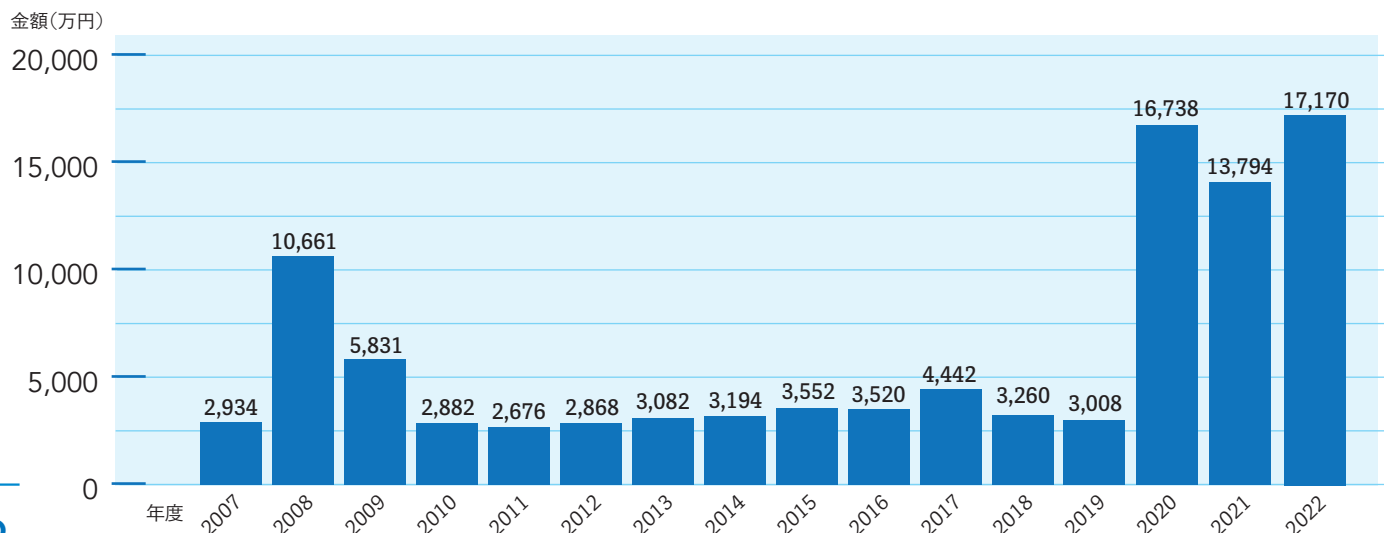
助成金取得実績

藤沢市市民自治推進課／地域創造基金さなぶり・47コロナ基金／NPO法人青少年自立援助センター 他

物資支援等

カタログハウス／セカンドリーグ神奈川／公益社団法人日本非常食推進機構／パルシステム東京／パルシステム連合会／フードバンクいたばし／フードバンクTAMA 他多数

寄附金額の年次推移 (2007年度以降)



メディア掲載実績

新聞

- ▶ コロナ禍と物価高で加速する生活危機 安全網の「穴」ふさぐには／朝日新聞
- ▶ 増える「生活不安層」 新宿ごはんプラス共同代表 大西連さん／毎日新聞
- ▶ 困窮者支援の食料品が足りない！コロナ禍で必要とする人は増え、寄付は減り／東京新聞
- ▶ 息の長い困窮者支援を／公明新聞
- ▶ 子どもの孤立防げ 活動報告や討議 KOTOMO基金 岡山でシンポ／山陽新聞
- ▶ 雇用統計 物価高、非正規の生活苦境 観光業、皮肉な人手不足／静岡新聞

雑誌

- ▶ 若者や子連れの母親が食料配布に並ぶワケ 東京・新宿の支援所で見たインフレのリアル／週刊朝日
- ▶ 中高年「貧困と孤独」の実態／週刊SPA!

テレビ・ラジオ

- ▶ 「荻上チキ・Session」出演／TBSラジオ
- ▶ NHKニュースなど、報道番組

WEBメディア

- ▶ 孤独・孤立対策推進法が成立した今こそ政府の本気度が問われている／ビデオニュース・ドットコム
- ▶ 生活保護を理由に入居差別。賃貸業界の負の解消に取り組む自立サポートセンター「もやい」の願い／SUUMOジャーナル
- ▶ コロナ禍のNPO、現場の活動に制限もオンライン化で活路／alterna

ほか、掲載・出演多数

もやいの活動をご支援ください

〈もやい〉の活動は、多くのみなさまからのご寄附で支えられています。日々〈もやい〉に届くSOSに添えていくためには、安定した財政基盤が欠かせません。この社会から貧困問題がなくなる日まで、私たちの取り組みにぜひみなさまの力をお貸しください！

※〈もやい〉への寄附金（相続財産・遺贈寄附含む）は税額控除の対象になります。

寄附の方法

【単発の寄附】

- ▶ クレジットカード決済
- ▶ 口座へのお振込み
郵便振替口座
銀行口座（三菱UFJ銀行）
ゆうちょ銀行口座

【継続的な寄附】

- ▶ クレジットカード決済
- ▶ 銀行口座から引き落とし



寄附に関するお問い合わせ：TEL 03-6265-0363（火・水・金 14～17時、祝日休み） <https://www.npomoyai.or.jp/kifu/>



もやいスタッフメンバー

左から：結城翼（生活相談・広報）／小泉幸子（事務・経理）／大西連（理事長）／多田学（生活相談・広報）／黒木菜月（生活相談・広報）／桑原康平（事務・経理）／田村千佳（入居支援）／松下千夏（交流）／澤田洋子（入居支援）／田中悠輝（生活相談・広報・交流）

<写真撮影時・不在のメンバー>

パパことOさん（交流）／加藤歩（事務局長・生活相談・広報）／東あさか（入居支援）／川岸夕子（入居支援・生活相談）



認定NPO法人
自立生活サポートセンター・もやい
のミッション

新たな暮らしの基盤と、新たな人間関係を。
ひとりひとりの再出発を応援するために、
4つの「つながり」事業を展開しています。



01

入居支援事業

新生活の基盤づくりに「つながり」を。

アパート入居にむけた支援 不動産仲介事業

02

生活相談・支援事業

生活の困り事を相談できる「つながり」を。

もやいほっとライン 面接相談 制度利用のサポート

03

交流事業

おたがいに信頼し合える「つながり」を。

イベント開催 居場所づくり

04

広報・啓発事業

社会と貧困問題に「つながり」を。

公的機関への提言 情報発信 講演

認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい

〒162-0801 東京都新宿区山吹町362 みどりビル 2F

TEL 03-6265-0137(火曜日12時～18時・金曜日11時～17時・祝日はお休み)

FAX 03-6265-0307 info@npomoyai.or.jp <https://www.npomoyai.or.jp/>